癒やしの景観を求めて

黒から白へ

強化板工法による

車道平板舗装特集

黒から白へ
車道の一部または全面を、黒舗装（アスファルト）から明るい色の白舗装（平板）にすることで、環境が一段とグレードアップします。
本資料には、車道を平板舗装にすることで景観を高めた施工事例を収録してあります。
舗装構造・工法は、コンクリート路盤や敷モルタルを使用しない、乾式たわみ性構造の強化板工法を採用。段差やズレやブローアップの起きない耐久性に優れた構造・工法を採用しています。
施工性・維持管理も黒舗装と同様の利便性を有しています。

2011.1

株式会社津田ペイブトンテクニック

〒920-0921　石川県金沢市材木町16-13
TEL 076-221-9712　FAX 076-221-9713

LKM ニュース164

使いやすくなった天然石平板舗装。車道。ＳＢＦシステム

NO.164　2009.10　株式会社津田ペイブトンテクニック

「住みたい町」として、しばしば全国１位の東京目黒区自由ヶ丘。最近、駅前周辺の車道舗装が完成。ＳＢＦシステムによる天然石平板舗装である。素材は天然石がよい、サイズは大きいほうがよい、で天然石の平板舗装が候補に。しかし、従来この種の舗装は、コンクリート路盤としなければならず、後々の維持管理や工事中の即時交通解放問題やブローアップ破損で使い勝手が良くなかった。今回採用されたＳＢＦシステム（太平洋プレコン工業）は、目地部に強化板を挿入する強化板工法。砕石や瀝青のたわみ性の路盤に施工できる工法で、従来工法の問題点を解消。天然石平板舗装が大変使いやすくなった。

東京都　目黒区　自由ヶ丘　駅前周辺車道
ＳＢＦシステムによるたわみ性天然石平板舗装
コンクリート路盤や膨張収縮目地は一切不要

写真提供　ＰＡＶＴＯＮ

LKM ニュース39

ぱっと明るくなりました。　熱海市鶴田通り・・・

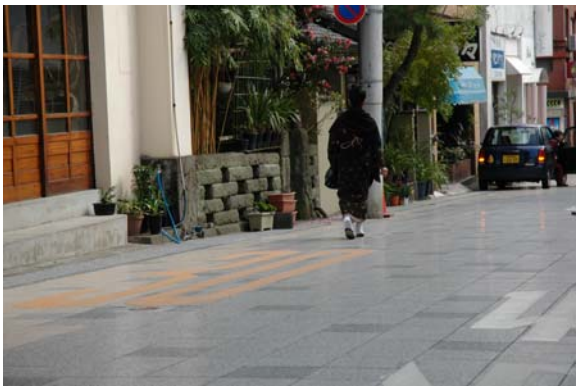
NO.39　2005.11　株式会社津田ペイブトンテクニック

路地、それは、そこに住む者にとって、とても大切でもあり、とても親しみのある言葉でもある。日常頻繁に歩行するみちと同時に生活関連車両も走行する、いわゆる歩車兼用道路である。

一昔前までは新婚旅行のメッカであり、寛一お宮の松で有名な熱海市の代表的な路地、鶴田通りに、アイエルビーグループの「スーパーバリアフリーシステム」が採用された。

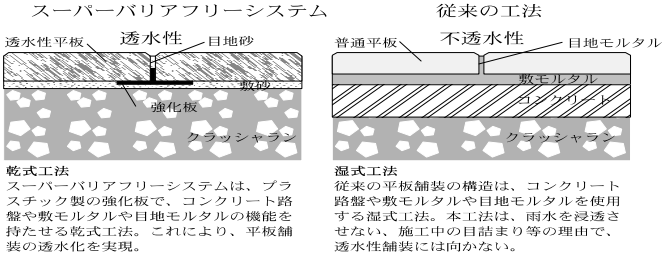
みち行くものに、また、そこで生活するものに、心に明るさを与えてくれる。用いられたブロックのモジュールは平板。仕上げは、研磨透水のグランパムストーン。研磨品でありながら滑り難いブロック。

さて、従来、路地には平板舗装は使用されなかった。従来の平板舗装は、車に弱いからである。今回適用された「スーパーバリアフリーシステム」は、クロス目地部にプラスチック製の強化板ＨＫＳを用いた強化板工法。コンクリート路盤や敷モルタルを用いない乾式工法。平板舗装の技術革新といえよう。



静岡県　熱海市　鶴田通り
スーパーバリアフリーシステム　300X300X80
グランパムストーン

舗装構造比較



乾式工法
スーパーバリアフリーシステムは、プラスチック製の強化板で、コンクリート路盤や敷モルタルや目地モルタルの機能を持たせる乾式工法。これにより、平板舗装の透水化を実現。

湿式工法
従来の平板舗装の構造は、コンクリート路盤や敷モルタルや目地モルタルを使用する湿式工法。本工法は、雨水を浸透させない、施工中の目詰まり等の理由で、透水性舗装には向かない。

LKM ニュース104

地域住民より感謝・都市景観の向上に活躍。強化板工法

NO.104　2007.11　株式会社津田ペイブトンテクニック

今回の写真は、大通りと交差する路地の平板舗装の補修工事。交差点部の平板舗装は、大通りの歩道舗装（平板）が路地によって分断されることなく「歩道舗装の連続化」で景観を高めて欲しいとの住民の強い希望によるものである。平板舗装は、従来コンクリート路盤とするが、路地舗装では即時交通開放が求められ、本現場では、やむなくアスファルト路盤が採用された。そのため、過去何度補修しても破損が起きることから、アスファルト路盤（たわみ性路盤）上に施工可能なＳＢＦシステム（強化板工法）（太平洋プレコン工業）で補修することとなった。

補修前

東京都　江東区　浅草
路地交差点部における平板舗装の補修工事
ＳＢＦシステムによる補修
下地材として強化板ＨＫＳおよび
ブロックサンドを使用。

写真提供　青木氏

耐久性実証・・・強化板工法

NO.153　2008.12　株式会社津田ペイブトンテクニック

写真は、石川県小松市材木町　歩車兼用道路に強化板工法（ＳＢＦシステム、太平洋プレコン工業）が採用されてから１年以上経過した状況である。周辺には駐車場があって制動やねじれ作用を受けている箇所もある。舗装は健全な状態にある。

小松市材木町

小松市大文字町

石川県　小松市材木町　歩車兼用道路
コンクリート路盤を必要としない強化板工法
ＳＢＦシステム平板舗装
３００モジュール天然石平板

写真提供　ＰＡＶＴＯＮ

LKM ニュース187

歩車兼用道路に３６天然石平板、構造は強化板工法を採用。

NO.187　2010.8　株式会社津田ペイブトンテクニック

施工して、もう３年は経過している。天然石舗装はびくともしていない。舗装構造は強化板工法である。現場は、石川県能登町宇出津である。過去、敷モルタル工法で何度も痛い目に会っていることから強化板工法が採用された。最近、敷モルタル工法を止め強化板工法を取り入れている行政機関が増えている。

石川県　能登町宇出津
歩車兼用道路に３６天然石平板。
構造は、強化板工法。
ＨＫＳ　ブロックサンド

写真提供　高田氏

連続性に応えるスーパーバリアフリーシステム・・・

NO.24　2005.4　株式会社津田ペイブトンテクニック

路地の横断歩道に平板舗装が採用されたと聞き早速記事に纏めることとした。従来、このような場所に平板舗装を用いる場合はコンクリート路盤としなければならず、後々のメンテナンスに問題を有し採用される機会が少なかった。今回アイエルビー社が開発したスーパーバリアフリーシステムは、コンクリート路盤や敷モルタルや目地モルタルを使用しない乾式工法であることから、平板舗装の用途範囲が広くなったと期待されている舗装システムである。本システムは、舗装構造にプラスチック製の強化板（ＨＫＳ）やアスファルトでコーティングされたクッション砂（ブロックサンド）が下地材として使用されていることを特長としている。今回の現場は、歩道を分断することなく、同一素材同一モジュールで通すことで景観性を高めたいと切に願う近隣市民の要望に十分応えるものであるといえよう。

福島県　福島市　腰浜町・町庭坂線

写真提供　土岐氏

LKM
ニュース198

もう安心です。

NO.198　2010.11　株式会社津田ペイブトンテクニック

自転車が怖い、夜間の歩行が怖い、見た目もよろしくない。補修前の横断歩道である。これまでは、従来の工法、すなわちモルタルに平板を貼りつける敷モルタル工法を用いていたので、平板が剥がれるといとも簡単に段差が発生し、歩行者に迷惑をかけることとなったのである。

今回、補修に用いた工法は、近年開発された強化板工法で、この工法は、従来の敷モルタルに張り付けるというものではなく、繰り返し曲げ応力やせん断力に優れたプラスチック製の強化板をクロス目地部に挿入する工法である。これにより、ブロックや平板の横ズレを長期に渡って抑制してくれるので、舗装の破損は起きない。この強化板工法は、すでに１０年以上の実績をもち、国交省ＮＥＴＩＳに登録された工法である。

写真は、駅前広場の横断歩道部の補修風景である。本工法を用いた補修により、長期間段差やズレが起きないことから、これからは、地域住民にご迷惑をかけることなく、更に横断歩道と一般歩道を一体化して景観性を高めようという横断歩道部の平板舗装化本来の目的も達成できるといえよう。

石川県金沢市　駅前広場横断歩道　補修前　敷モルタル工法　補修後　強化板工法

補修前　敷モルタル工法

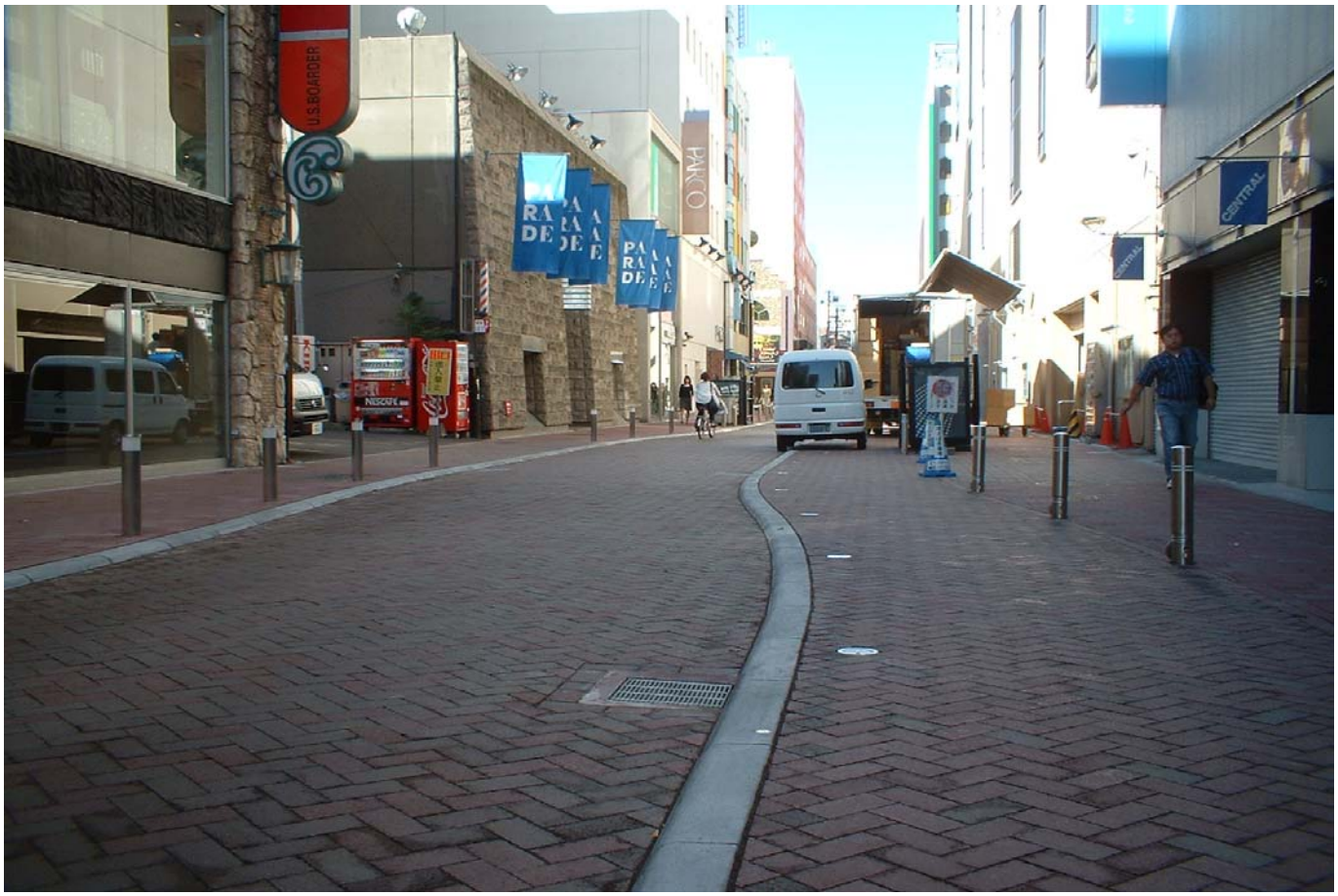
補修工法：敷砂強化板工法

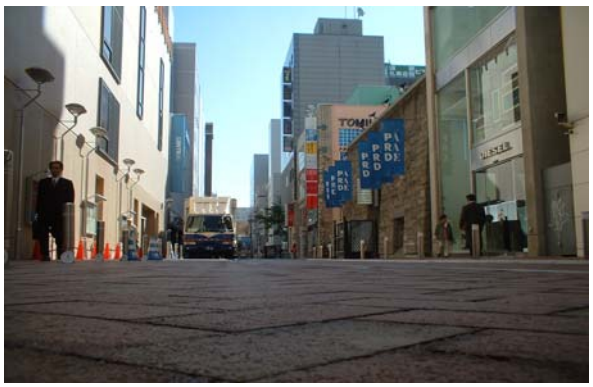
Zerointer ニュース 19　静かな走行、ガタツキは起きません。

NO. 19　2006. 11　株式会社津田ペイブトンテクニック

リニューアルに用いられた舗装は、低振動低騒音型０目地ブロック「ゼロインター」（北海道スプリットン工業社）といって、歩道では、平板並みにバリアフリーで、車道では、アスファルト並みに静かな走行を特長とする業界唯一のゼロ目地ブロックである。

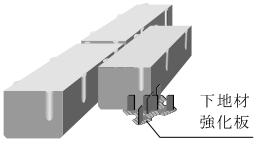
また、同舗装には、長期間段差やズレを起さないよう「強化板工法」が用いられた。





北海道　札幌市
シャワー通り
ゼロインター舗装
強化板工法

写真提供　　熊谷氏



LKM
ニュース162

車道全面改修に強化板工法を採用・カタカタ騒音も解消。

NO.162　2009.6　株式会社津田ペイブトンテクニック

共用１０年強のＩＬブロック車道（約１，０００㎡）。所々でインター舗装特有の局部破損が発生、全面改修へ。カタカタ病による騒音公害の解消を兼ねて。輪島塗、朝市あるいは永井毅記念館等で有名な石川県能登半島輪島市。能登空港より車で３０分の日本海に面した港町。朝市通り周辺の車道である。全面改修に際して強化板工法が採用された。またブリックからフィッシュボーンへ変更。勿論ブロックは完全再利用である。見て良し、買ってよし、食べて良しの輪島市へどうぞ。

補修前

石川県　輪島市　朝市通り周辺改修工事
インターロッキングブロック舗装
車道
強化板工法による改修
写真提供　鮎川氏

LKM ニュース170

使いやすくなったレンガ舗装、強化板工法の採用で。

NO.170.　2010.5　株式会社津田ペイブトンテクニック

微妙に異なる色合い、微妙に違う寸法。この微妙な違いが、いわゆる焼き物レンガの味であり、レンガの良さであろう。一方、従来この微妙な寸法差が構造的に不安定で、砂目地ではかみ合いが弱く、モルタル目地では、ブローアップ対策などで苦労があった。現場写真は、最近完成した、強化板工法が採用された、ある市のレンガ通りである（レンガは荒木窯業㈱製）。レンガブロックの段差やズレを防ぐ強化板ＬＫ２０工法、モルタル目地を使わないことから夏場のブローアップ破損は起きない。安心して、レンガ舗装（車道を含む）の独特の景観を楽しむことが可能となった。

群馬県　高崎市　レンガ通り
強化板工法（ＬＫ２０）によるレンガ舗装
レンガ　荒木窯業㈱製

写真提供　讃岐氏